

大阪府立茨田高等学校 平成28年度 第2回 学校協議会 記録

- ・開催日時 平成28年11月10日(木) 15:30～16:40
 - ・出席者 協議委員(敬称略) 川村幸治、寺野雅之、綿世良一、岡邑由紀子、吉江正彰
(早坂三郎委員は欠席)
- 学校側 亀元校長、石井教頭、坂東教頭、島田首席、松井首席

【第一部】

(1) 校長のあいさつ 「学校の状況報告」

- ・6月22日に韓国から教員28名の訪問があり、本校のコミュニケーション能力向上等の取り組みについて紹介した。
- ・9月24日に大阪国際大学留学生の協力を得て、インターナショナル・デイを実施した。
- ・10月13日付けで甲子園大学・短期大学と高大連携に関する協定書を締結した。
- ・10月22日の大阪サイエンスデイにポスターセッションで参加して高い評価を受けた。
- ・文化祭では演劇とともに、展示のレベルも上がる。
- ・地域連携や広報面で、地域のふれあい祭りに本校生徒が参加し、またPTA文化教室に近隣住民の方々に参加していただいた。
- ・同窓会の活動も活発になり、文化祭で卒業生が「茨田せんべい」を販売し完売した。
- ・中学校には55校訪問し、32校に電話等で広報活動を行った。

(2) 本校の進路指導についての説明(島田首席・進路指導主事)

- ・本校勤務8年目、着任当初は自己肯定感の低い生徒が多いのが課題となっていた。
- ・求人数がリーマンショック(平成20年)後に減少したこともあり、5年前には卒業時に進路未定・フリーターの割合が25%を超えていた。
- ・本校生徒は家庭環境等の要因から学校での進路指導がとりわけ重要となるが、実施の指導では各学年任せ、業者任せになっていた面があった。
- ・4年前から進路指導の改革を始めた。
 - ①各学年任せではない学校としての進路目標を設定した。1年は「知る」、2年は「決める」、3年は「つかむ」をキーワードとした計画に基づき、各学年で様々な進路指導を行う。
 - ②活用しやすい進路指導資料集を作成する。
 - ③保護者に対して、入学時に大学等の進学費用の説明をしている。さらに保護者向に大学等の見学会も設けている。
- ・昨年度の進路状況について
 - ①卒業生の進路は、進学38.2%、就職52.9%、訓練校1.8%、未定・フリーター7.1%となり、就職希望が半数を超えた。
 - ②ある大手鉄道会社への就職を入学当初から希望した生徒がおり、学校として求人票をもらえるように企業に働きかけ、本人も努力を重ねて内定をもらった例がある。
 - ③訓練校に3名入学した。私学等に比べて1/10の費用で入校できるが、電気工事関係の課程は勉強が難しい。
- ・今年度の求人数は現在542件(昨年度は553件)。今年の3年生はアパレル関係への就職希望が多いこともあって、公開求人を希望する生徒が増えているが、指定校求人に比べて倍率が高く内定を得にくい。現時点では希望者のうち約半数が内定を得ている。

【第二部】

(1) 協議委員による協議

- ・本校では、卒業時における進路未定・フリーターを減らすことを目指し、高校三年間を見据えた進路指導を実施してきた。その結果として進路未定・フリーターの割合はここ4年間で1/3未満に減少したが、一方で新たに生じてきた以下の課題について協議した。

①ミスマッチの解消（卒業後の早い段階での離職や退学を防ぐ）

②3年の2学期に進路変更をする生徒への対応

- ・学校ではいじめはないと思うが、社会には存在する。それが離職につながっているのではないかと。
- ・就職先への聞き取り等により、生徒へそのようなこと（離職等）があると伝えることも必要。
- ・核家族や過保護によって子どもが環境に適応できなくなっているのでは。以前は住民とのつながりが強く、子どもが近所悪いことをしたらすぐにわかっていた。
- ・地域の子ども会活動では、子どもに「けが」をさせないのではなく、けがを経験させ痛みを味わうことで、してはいけないことを理解していく。
- ・子どもに耐性（がまんする力）をつける必要がある。本来は小学校や中学校で養うべきものだが、高校を中退する子は基本的な生活習慣ができていない。その原因には家庭でのDVや過保護も考えられる。
- ・いかに系統立てて将来を考えさせ、夢を持たせる指導を行うかが重要では。中学ではSPトランプを実施して、自分の性格や仕事、勉強の方法などを知るように指導している。
- ・成功例だけを見せすぎないように、夢をもたせながら失敗例も知らせること。
- ・生徒の家庭環境を知り、それに合わせた指導が必要。しかし、個々のパーソナリティを考えつつ、教員側がどこまで突っ込んで指導を入れるかはとても難しい。
- ・現在の進路指導全般にガイダンス不足があり、生徒が具体的な将来像やキャリアステージが描けていないのでは。指導内容に求人票の見方や選び方、先輩の経験談を入れることも必要。
- ・技能職の就職が少ないような気がする。（→生徒は「きれいな」接客を希望する傾向にある。）
- ・卒業生の就職後の状況まで考えて対応を考えているのは「良い学校」である。

(2) 校長からの謝辞

- ・さまざまな取り組みを形骸化しないようにしていきたい。